

地方官の報告

外

改正局の報告

二冊

山口縣地租改正の概況

地租改正所由田舎説

辛未以来上申スル言、地租改正議及規則を撰テ
 纂ス且其旨を得サル所以来由ヲ略述シテ以テ参酌供ス
 抑租備調ノ古法ハ大寶令ニ明文アリト虽氏後世
 傳ラス中古以来争亂相繼キ武門武士ナルモノ各國
 其時ニ各耕戦ヲ務カメ以テ其私ヲ管ニシヨリ收
 租ノ方法モ多クハ兵後分賦ノ意ニ基キ其地
 方習氣下時勢ニ因リ主將ノ意匠ヲ以テ賦課
 セシモノナリ故ニ一定ノ規律ナキハ勿論天
 度量衡、如キニ至ワテモ各其制ヲ異ニセリ

降テ徳川氏ニ及ヒ二百餘年ノ太平ヲ致ストモ
 氏前古擾乱ノ久ニキ、懲リ休息無事ヲ要務ト
 ナシ制度百端其習慣ヲ因襲シ田租ノ制ニ至ツテモ
 昔親ニク能管スル所ノ國ニハ租整理ヲ加フトモ
 國主大名ノ管スル所ニ至ツテハ竟ニ之レヲ改ムル
 能ハスヨ守テ戊辰変革ノ秋ニ及ヒ往々地租改正ノ
 議ヲ唱フルモノアリト臣氏實際者年ノ難キヲ
 以テ未タ其議ヲ建ぬスルモノアラズ爾後三年未
 度藩立縣ノ命出ルニ及ヒ當省ニ於テ首トシテ
 其議ニ及ヒ地券分一ノ税法ヲ議定ニ壬申正月

太政官ニ申シ允准ヲ得先ツ東京府下ニ地券税法ヲ發行シ
 尋テ旧來地所賣買ノ嚴禁ヲ解キ地券ヲ附與スルモノヲ
 舉行セリ

是ヨリ前キ世ノ税法ヲ議スルモ往々田地ヲ再檢テ石盛均
 カラサルヲ整理シ以テ田租ヲ公平セトノ説アリ然レモ此後、聖ハ最
 民心ノ安撫ニ實際行フ能ハサルニナリ如何トナシハ徳川氏時再檢又
 ハ地押ノアレハ必ス税額ヲ増加スルカ故ニ再檢ハ政府
 ニ於テ地租ヲ増ス可キ者意トシ思フノ念
 慮民心ニ固著セリ況テ大名領土ノ管下ニ在ル
 如キ大概石高ヲ增加シ其門閥ヲ擧セトスル

私欲アルヲ以テ山ニ高ク附キ川ニ高ク賦スルノ
 類比之レアリ然レモ其實收メ増ス能ハス故ニ
 其歲入虚名ヲ増加スルモ其實ハ其名ニ應スル
 能ハスニシテ右種地息ノ賑救法ヲ設ケテ民心ヲ
 慰スルモ民ハ其名ノ増加スルニ恐懼シテ檢地
 又ハ地押ノ舉ラ爾テハ荷擔スルニシトスルノ情勢カ
 アレハ決シテ行ハシサルニ宜論ナリ
 但此際當リ集議判官神田孝平今其序地價ノ
 税ヲ賦スルノ議アリ是改正論ノ甚高矢トモ唱フ
 可也

然レテ其端緒既ニ開ラント是凡實際著年ノ如キ
 實ニ交易ナラサルヲ以テ地考ヲ附録ハスルノ事務カ
 至シテ一歳ノ間セリ尋テ癸酉四月地方折會
 ノ時ニ臨ミ地租改正ノ議亦大ニ起リ此時ニ於テ格々
 旧法ヲ維持セトノ議向ニアリト是凡大異改正ニ要スル
 論十ノ九ニ居ル然レテ其改正ニ要スルニ要スル地
 方法ヲ可トスト是凡時ノ情勢カ今科賦ニ新舊ラク金銀
 税ヲ施行セリ欲スルモノ亦タ其一二ニ止リテ是年
 其均久ヲ計較セカタメ數多ク撰ミ其方法ヲ調
 理セムルニ及ヒ金銀税ノ主法スルモノニ意ニ

地考秘法は其法を考ふるに及じ故に曰
之レリ可ト決セリ竟ニ其書ヲ 上考ニ内閣ノ衆
議ヲ經 上考ヲ以テ天下頒布セラルモ其考一冊七月廿五日
七十ニ至リ公考是也凡リ地方官ノ之レヲ可ト決セ
異ノ偏ナキモノハ何リヤ蓋シ前ニ陳述スル弊(戰國)
態見テ受テ之者悉ク各極一方法ハ封建(割拠)時
去地人民ヲ私ナセシ目ノ行ハル可クニテ一視同仁
世ニ行ハル可モノハ非ス然リ而シテ其考ヲ改メトラス
ルヤ再考地考ノ行ニ難キハ勿論衆ノ知人(所)ナシハ
之レ一極ノ秘法ニ從テト欲スルニ可ク其考ノ

得又保全家稅ヲ施サトスルモ其時宜ニ考セズ
金家稅ヲ施サトスルモノハ正米納納(納)ニ至テ
民費ニ亦少ナクナリシハ各地各年ノ各家ノ數
ノ所代ヲ平均ニ一村一郡ノ各家ヲ定メ以テ其年
間ノ定額トナサント考テ然レバ旧時ノ稅額
ヲ以テ以テ目的ト為スカ故ニ重キモノハ重キ輕
キヲ均ス輕キモノハ重キ平均ニ納スル能ハス到稅
口法ハ西國ノ考スルニニ至テ人民ノ均失ニ関セシ
ハ是レニ至テ後中(中)セリ
故ニ地考法ノ傳ヲ見テ稅ヲ賦ニ收利ヲ見テ地價ヲ

定ルルヤモ如ク之レヲ整頓スル實ニ容易ナクモ是レ
地價一定ノ後ハ収租ノ方法ハ簡易明白ニシテ
上下共ニ其便利ヲ得ヘキヲ以テ各員之レヲ
一ニシテ之レヲ

是ヲ前各官所任ノ政府ノ親管トナレルモハ終
極見ノ方法ニ因リ三五年間ハ年々秋收穫ノ多ク
寡方ヲ檢ヒテ其年ノ貢額ヲ定先方治アリ此法ハ
田畠墾墾ノ方法ヲ參酌シ度年々大蔵省ニ於テ
議定スル所ナリ其法タル頗ル公平ニ似タリト雖モ一村内
ニテ所或ハ宜所ノ利物ヲ平均シ村貢額總計ヲ定先方治一人上

雨ノ多良田ノ持モ、益トナリテアリ時トシテ下田ヲ持
シモノ、益トナリテアリ若シ然ラズトモ檢見後々因
算ニ認認アル内ハ益トシキ不_レ公_レ生_レタルナリ田畠時
世ノ地方ノ少吏係多_ク易職ヲ世ニ_レ知_レサ_レズ_ル其務ニ
服事_スル_ル地_方肥_饒ト_シ其_後如_キ檢_見モ
不_レ是_レ大_小官_計ハ_レ豫_シメ_ル其_中ニ_テアリ_テ以_テ
其_法モ_不亦_レ準_テ得_ル然_レモ_其事_情ニ
熟_考ス_ル以_テ流_弊モ_不至_ル今_日
墨_縣ノ_如キ_東ノ_久九_州ノ_地方_ニ後_事ニ_而
久_北國_ニ任_用セ_ルル_ル如_キ事_情ノ_地方_ノ事_情ニ

略リ切あり檢見たるモ身申準リ得ル期モ平故ニ
 地方後事ノモリ檢見たるモ當ツテハ寧ロ寛ニ決スルモ
 二失ス可成リス是モ甚志以法ノ苛酷ヲ救フト
 夫レ在リト雖モ事情不然ニサレテ得ス故ニ
 其ノ人氏等ヲ檢見テ全望セリ加々延床ヨ
 少キ一縣内數符或ハ二千余檢アルアリテ
 煩ハシキノミナラス甲ハ亦アリ一斗或ハ三斗ヲ納メ
 乙ハ三斗亦アリ納メ或ハ一石モ納メサレテ其
 実量ノ輕重ハサテ累々名義ノ偏頗ナルヲ
 以テ地方官モ皆メテ之レヲ回一セテ檢スルガ

故ニ檢見テ以テ貢額ヲ定メントスルノ念也慮アリ
 如此人民ト地方官ト均レク檢見テ欲スルカリ
 ソ事情ノ止レテ得サルハ其為者モ之レヲ
 拒ムテ得スレテ其申請ニ應スルハ必ラス
 旧額ニ比シテ十分一或ハ十二ヲ減スルモノ
 往々有之然リ而シテ其減スルモノ細民ノ格
 低ノ一人毎ニ徹底スレハ是レ仁政ト云フモ
 可ナレバ或ハ富豪ノ利シテ多ク寛ク及ハズ
 ノ弊ナリ政府ノ減入ヲ減スルモ実惠下
 民ノ及ハサルノ弊アリ

爾來舊法ノ格外偏重偏輕
モハ後未改正ノ秋マテ暫ク回費
ニ因熟衣スヘキ旨及指令置漸ク地方
官モ人民ニ對シテ改正ノ前途ニアル
中以テ暫ク舊額ニ據置テ説諭
スルヲ得ルハ虫比臨時旱水ノ憂及アル中
以テ舊額ヲ保ツ能ハサル郡村ハ
徃々破免檢見入ヲ申請シ而シテ
破免ノ上舊額ヨリ減スルモノ追々
上申有之其減スルモノハ天災ニ属ス

ト虫比亦舊額ノ偏重ト官吏用法
ノ斟酌トニ因リ減スルモノ若干ニ
居シ

日早年ハ水田ニ利アリ水損ハ旱田ニ
利アリ假令水旱並臻ルト虫比
至酉ノ如キハ大略以テ中年ノ
上下推想ヤリ然ルニ同年
檢見破免ノ多ク本年ニ至リテ各地
ノ上計概算ヲ審按スルニ甚キハ十ノ三
ヲ減レ或ハ其一ヲ減スルアルアリテ煎

地租改正ノ止ム可カラサルモハ現今地租
 收入ノ景況右ニ陳述スルカ如キ因レリ右
 事情ヨリ論スルハ強テ旧法ヲ維持セ下ス
 レハ檢見ヲ奉行セサルヲ得ス檢見ヲ奉行
 スレハ若干減租トキチ免カレヌ加之及別
 諸租ノ地ト旧来及別ヲ用ヒサル地ハ檢見
 ヲ異奉行セントスルモ決シテ能ハス維令
 帳簿上ノ及別整頓セルアルモ實際
 ハ必ス然ラザレハ檢見施行スルニ當リ

テハ大體均一賦租ヲ徴スル能ハス
 多クノ物徴ヲ生ズモ又此ノ四法ヲ維
 持セ下欲スルモ今日之爲リテハ決シテ能ハサル
 ノ弊アリテ一租ノ良法ヲ設ケザルヲ得ザル
 ノ時勢ニ至レルナリ
 今地券税ノ方法ヨリ後價百ノ三收入則
 ニテ其價ハ凡ソ実利ノ十ニ倍有實
 算ナリ若シ現収後復百ヲ以テ算スレハ其ニ
 十四ノ官納スルモノトナス之ヲ舊法ニ
 比スレハ

四幕法ニ五公五民ノ稱アリト云凡檢見上干賦
 二割引ノ法アルヲ以テ四公三民ノ割合ナリ

右陳述ハル所ニ他租改定ノ由來ニテ其詳細
ナルハ既上陳セル所ノ別敷冊ニ存セリ而前途
改正ノ後税額ノ増減ナルヤ未其精算ヲ
得スト虽モ今般山口縣凋瘵ノ景況及諸
縣ヨリ申附タル所ヲ參考ナルニ凡別表如
ク減額ニ至ラニモ量ル可ラスト虽モ地租改正ノ
止ム可ラサルハ前條具述スル所ノ如ク然リ而
此事ノ繁々タル至大ニ重ナル勿論ニシテ方一
事ノ半途ニ至リ多サノ紛紜顧議ヲ生ル
ルアラハ下衆庶ニ信ヲ失フニ至ラヌ國家ノ

一大患ヲ醸成ス可クト豫メ焦慮スル所ナリ因
テハ今ニ於テ尚中熟慮ノ上前途ノ廟算
ヲ確定アラシムトテ企望ス

租税額相方ニ就